授業のポイント

- ・ 科学的な根拠をもたせるための指導の工夫
- ・ 思考の過程が見えるノートの工夫

理科学習指導案

学 級 3年3組(男子18名女子16名計34名) 場 所 第 2 理 科 室 (1 年 校 舎 3 F) 授業者 教 諭 前 山 隆 史

1 単 元 月と惑星の見え方 (大単元 地球と宇宙)

2 単元について

月は、私たちが住んでいる地球から最も近い天体であり、人類が到達した唯一の地球外天体である。また、その運動と見え方の規則性から太陰暦がつくられるなど、古くから生活や文化の一部として用いられている。 最近では 2009 年に皆既日食、2012 年には金環日食などがあり、メディアでもとりあげられ、天文や宇宙への 関心は高まっている。また、月の満ち欠けや位置の変化などは、日々見たり、体験していることでもあり日常 生活とのかかわりも深い。宇宙の学習をするにあったって、月の満ち欠けや位置の変化を太陽、月、地球の位置関係と関連づけて学ぶことは、生徒にとっては大変意義深いことである。

本単元では、日常生活で見ることのできる月の満ち欠けや位置の変化を観察することで、改めてその変化に 興味や関心をもたせること、また、地球上での内なる視点と宇宙空間における外なる視点とを関連づけて考え させ、説明させることで、空間認識能力を高め、科学的な思考力や表現力を養うことがねらいである。さらに、 内惑星や外惑星についても観察結果とそれぞれの位置関係とを関連づけて考えさせ、説明させることで、科学 的な思考力や表現力を養うことができる。

生徒は、これまでに小学校の第6学年で月の形の見え方が太陽と月の位置関係によって変わること、月の表面の様子は、太陽と違いがあることについて学習している。しかし、地球上の内なる視点からの捉え方が中心となっており、月の形や位置の変化、運動のようすを太陽、月、地球を俯瞰するような視点と関連付けて捉えることはできていない。

指導にあたっては実際に観測を行うとともに,月及び金星の動きや見え方についてはモデルを使って考えさせる。観察記録や資料から月及び惑星の位置や大きさの変化等の特徴を捉えさせるとともに,月の見え方,金星の見え方を太陽系の構造と関連付けて捉えさせる。さらに,ここで扱う事象や観察,及び資料を通して時間概念や空間概念を形成し,天体の位置関係や運動について相対的に捉える見方や考え方を養う。さらに,観察記録や資料などの記録をもとにモデルを用いて考察させ,説明させることにより,科学的な見方や思考力,自らの考えを表現する能力の育成もねらいとしている。

3 単元の目標

(1) 球体である月への太陽の光の当たり方と月の形の変化,惑星の動きや見え方がどのように変化するかに興

味・関心をもって観察することができる。

- (2) 月の公転と見え方,惑星の見え方を太陽系の構造と関連付けて捉え,説明することができる。
- (3) 月の見え方について正確に記録し,太陽,地球,月の位置関係についてモデル実験を行うことができる。
- (4) 太陽,地球,月の位置関係により,月の見える時間と形を理解し,内惑星と外惑星の特徴について理解することができる。

4 単元の指導計画(全8時間)

章	節		時 間	指導目標	学 習 内 容
3章 月と惑星の見え方	1 月の消	満ち欠け	本時 2 /	これまでに学んだこととして,満月, 三日月といった月の名前から,形が変わっていくことを確認させる。また,月の 形と位置がどのように変わっていくかを 観察させる。	・ 太陽 ,地球 ,月の位置関係によって , 月の形が変わることによって , 月の満ち欠けが起こることを確認する。 ・ 月の満ち欠けや動きを観察し , 正確に記録する。
		E		観察の記録をもとに,月の満ち欠けが時間とともに規則的に変化していることを確認させる。また,モデルや図を使って,地球に太陽の光が当たる時間帯を知り,月が見える方角からその形を推測させ,説明させる。	 月の見え方について観察した結果から、月の満ち欠けが時間とともに規則的に変化していることを確認する。 太陽、地球、月の位置関係についてモデル実験を行う。 モデル実験の結果から月の公転運動についてまとめ、説明できる。
	2 日食	上月食	1	日食,月食は,太陽,地球,月がどのような位置関係になったときに起こるのか,モデルや図を使って話し合わせ,発表させる。	・ 日食や月食が生じるしくみを太陽, 地球,月のモデルや図を使って考え, 説明する。・ 皆既日食と金環日食のちがいを考え, 説明する。
	3 惑星0	の見え方	2	金星の見え方は、どのように変化するのかを考えさせ、金星の満ち欠けや見える大きさについてモデルや図を使って説明させる。	・ 金星の見え方について,地球や金星 の公転運動と関連付けて考え,モデル や図を使って説明する。
			4	惑星と恒星のちがいや内惑星と外惑星 について確認させる。また,外惑星の見 え方について,金星の見え方と比較させ ながら考えさせ,発表させる。	確認する。

5 単元における評価規準

自然事象への 関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての 知識・理解
と恒星に関する事物・現象に進んで関わり,それらを科学的に探究しようとするとともに,自然環境の保全に寄与しようとする。	と恒星に関する事物・現象 の中に問題を見いだし,目 的意識をもって観察,実験 などを行い,月の観察記録	基本操作を習得するとともに,観察の計画的な実施, 結果の記録や整理,資料の 活用の仕方などを身に付け	の関連,惑星と恒星など の特徴,惑星の見え方と 太陽系の構造との関連に ついて基本的な概念を理

などに基づく惑星の見え方と太陽系の構造との関連などについて自らの考えを導いたりまとめたりして,表現している。	
--	--

6 本時の実際

(1) 題 材 「月の満ち欠けのしくみ」(2/2)

(2) 目標

観察記録をもとに,太陽,地球,月の位置関係についてモデルを用いて実験を行うことができる。 実験の結果から月の公転についてまとめ,太陽,地球,月の位置関係をもとに,ある地点での月の形や 位置,運動のようすを説明することができる。

(3) 授業設計の工夫

科学的な根拠をもたせるための指導の工夫(視点1)

地球から見える月の形がどのように変化するかを調べ,それぞれの天体の位置と地球から見える月の 形との関係を説明させたり,月の満ち欠けの様子や日没直後の月の位置が西から東へ移動することから, 月が公転する向きを推測させる教材を使用させ,科学的な根拠をもって説明できるようにした。

思考の過程が見えるノートの工夫(視点2)

モデル実験を行い,その結果を個でノートにまとめさせる。その後に,班内で発表を行わせ,練り合い活動を行わせることで,班の考えとしてノートにまとめさせる。それぞれを違う色で書かせることにより課題に対する自分の理解を深めさせることができると考えた。

(4) 展 開

I					
		形	学	習 活 動	・指導上の留意点 評価
程	間	態	þ		思考の過程が見える工夫
導入	5分	一斉	事象提示 1 課題設定 2	1 これまでの観察記録から、 月の形や位置がどのように 変化しているかを確認する。2 学習課題を設定する。月の形や位置が日ごとに 変化しているのはどうして だろうか	・ 観察記録に加え,写真の記録から 月の形の変化や位置が西から東へと 変化している点に留意させる。 ・ 事象提示より,月の形や位置の変 化が起こることに興味をもたせる。 また,視点を移動させることに気付 かせ,見通しをもって取り組ませる。
展	4 分	個	予 想 3	 3 月が観察結果のようになるのはなぜかを考える。 ・ 光の当たり方が変化するから。 ・ 地球が自転しているから。 ・ 月が地球のまわりをまわっているから。 	きが逆になる点や時間を一定にした

